

銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号
加藤金属興業株式会社

◎ 2019年12月の国内電気銅建値は下記の通りです。

12月	2日	～	690円/Kg
12月	5日	～	680円/Kg
12月	10日	～	700円/Kg
12月	13日	～	710円/kg
12月	18日	～	720円/kg

2019年12月度は平均で705.00円/kgとなり、前月比24.00円/kgの値上がりとなりました。

海外銅価の動き

12月のLME銅相場	12/2～12/26	(安値ドル5,812.00～6,184.50 高値ドル)
12月のNYC銅相場	12/2～12/26	(安値セント260.80～286.45 高値セント)

12月度のLME現物は、11/2 \$5,855.50でスタート。11/30に発表された11月中国製造業PMIは、市場予想の49.5を0.7ポイント上回る50.2であった。このことを好感視し銅相場は一時的に上昇するも、米国経済指数の悪化や株式の低迷などを受け投資家心理が軟化し、上げ幅を削る動きとなった。

12月に入り、6日発表の米雇用統計で非農業部門の雇用者数が前月比26.6万人増と大幅に上回ったことで米経済の緩やかな成長を続けていることを示す形になった。また中国政府が米国から輸入する大豆と豚肉の追加関税の免除を続けると発表。歩み寄りの姿勢が銅相場を後押しした。更に13日、米中両国政府は貿易交渉の第一段階の合意に達したと発表。米国は15日に発表予定していた第4弾の対中制裁関税発動を見送った。中国は農産物輸入の拡大や金融市場の開放、知的財産権の保護などの方針を打ち出すと見られ、銅相場には好感、LME銅の続伸に繋がった。今後も米中経済関係の動きが銅相場に与える影響を注視したい。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年7月 資料より (単位/千トン)

	2018年 実績	2019年 実績	前年比	2020年 予想	前年比	2021年 予想	前年比
全世界地金生産	20,339	23,843	+2.2%	24,253	+1.7%	24,655	+1.7%
全世界地金消費	23,579	23,932	+1.5%	24,290	+1.5%	24,607	+1.3%
全世界需給バランス	-240	-89		-38		+48	

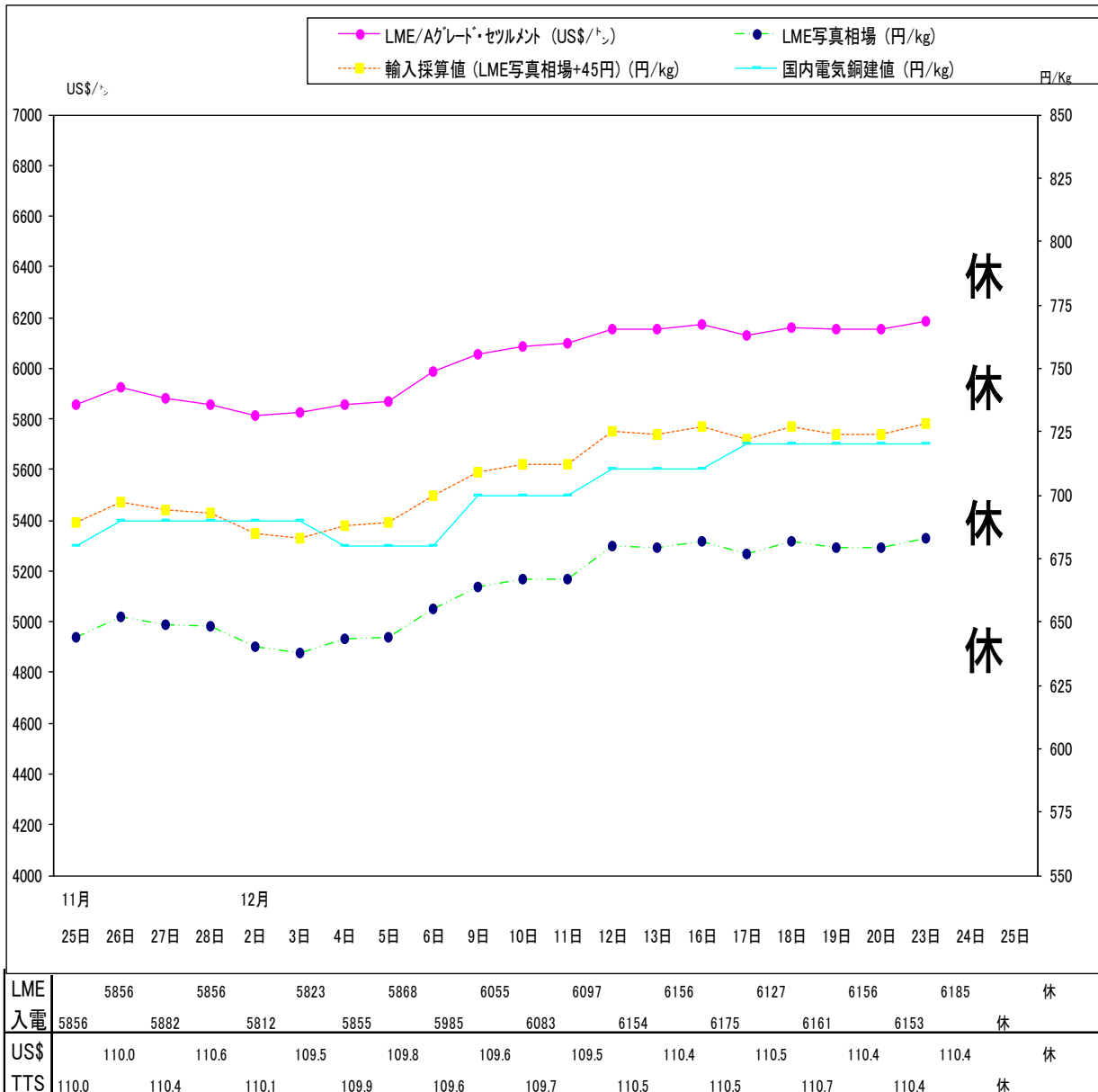
先行き短期見通

国内銅価

12月度の国内建値は2日690円/kgでスタート。世界経済は様々な問題を抱えるも影響の大きさは米中関係に要約される。5日680円、10日700円、13日710円、18日720円と順調に上げる形に。

12/24付LME \$6,184.50、同為替(TTS) 1USD=110.47円で日本円換算計算値683円/kg。2020年1月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、730円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2019年12月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 12月 2日 ~ 301 円/kg
- 12月 6日 ~ 295 円/kg
- 12月 11日 ~ 292 円/kg
- 12月 16日 ~ 298 円/kg
- 12月 19日 ~ 307 円/kg
- 12月 24日 ~ 304 円/kg

平均299.80円/kg

2019年12月は上記の通りで前月比 16.20円/kgの値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	12月	272.20 円/kg	(前月比-	18.70 円/kg)
電気錫 (相対)	12月	3,240.00 円/kg	(前月比+	40.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	12月市中価格	1,700.00 円/kg	~ 1,750.00 円/kg	
銀	11月平均	61,430.00 円/kg	(前月比-	1,130.00 円/kg)
	12月27日	64,400.00 円/kg		
金	11月平均	5,174.00 円/g	(前月比-	48.05 円/g)
	12月26日	5,305.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

2019年11月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		10月度実績	11月度速報	前月比	前年11月度実績	前年同月比
銅	板	1,539	1,518	-1.4%	1,560	-2.7%
	条	21,064	20,753	-1.5%	24,199	-14.2%
	管	8,952	8,841	-1.2%	9,774	-9.5%
	棒	2,202	1,997	-9.3%	2,344	-14.8%
	線	267	269	0.7%	263	2.3%
黄銅	板	587	547	-6.8%	593	-7.8%
	条	7,675	7,868	2.5%	9,328	-15.7%
	管	529	444	-16.1%	541	-17.9%
	棒	14,949	14,586	-2.4%	16,595	-12.1%
	線	1,948	2,033	4.4%	2,741	-25.8%
青銅	板	2,266	2,208	-2.6%	2,411	-8.4%
	条					
	棒	308	269	-12.7%	314	-14.3%
	線					
洋白・その他	板	377	339	-10.1%	525	-35.4%
	条					
	棒	420	339	-19.3%	461	-26.5%
	線					
合計	63,083	62,011	-1.7%	71,649	-13.5%	

11月の伸銅品生産速報は、62,011トンで前月比マイナス1,072、前年同月比マイナス13.5%となり、前年同月比が12ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の9月分実績及び10月分推定によれば、9月分実績は、総計60,564t（前年同月比6.4%増）と2ヵ月ぶりに前年を上回り、好調に伸びた。全体に占めるウェイトが高い建設電販が30,000tを上回り2桁増となったほか、自動車为好調を持続し、その他内需と輸出も前年をクリアした。

この結果、19年度上期（4～9月）電線出荷量実績は、総計349,816t（同2.2%増）と順調に折り返した。自動車（前年同期比12.8%増）が大幅に伸びたほか、建販も173,803t（同7.0%増）と好調であり、この2部門が下支えた。

一方、10月分の銅電線出荷推定は、総計60,200t（前年同月比6.5%減）と2ヵ月ぶりに減少したが、60,000tを上回り好調な動き。減少は、昨年同月が64,000t以上と大幅に増えたことに加え、台風・大雨による被害が響いた。自動車など7事業部門中6部門が前年を下回った。建販電線は30,000tを上回り、比較的健闘したものの前年同月比4.6%減少した。

また、9月分の電線部門別出荷のプラスグループは自動車、建販、その他内需、輸出の4部門となり、自動車は生産台数が依然好調で同6.4%増。建販は五輪＋都市再開発が好調で11.8%増。その他内需と輸出も各々同3.2%、同3.5%増加した。

一方マイナスグループは通信、電力、電気機械の3部門。通信、電力は各々同4.1%、同7.1%減少。電気機械も同5.0%の減少。

2019年9月分(実績)・2019年10月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	9月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	10月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	9月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通信	818	14.4	▼ 4.1	1,000	(22.2)	▼ 3.8	1,395	(12.1)	▼ 0.4
電力	(2,382) 4,033	(40.4) 1.1	(18.2) ▼ 7.1	(1,900) 4,300	(▼20.2) 6.6	(22.5) ▼ 6.1	(1644) 4,876	(46.9) ▼ 1.5	(8.2) ▼ 7.8
電気機械	(204) 11,211	(▼18.7) 15.2	(▼48.9) ▼ 5.0	(11,500)	2.6	▼ 13.1	(216) 15,110	(▼6.1) 12.8	(▼44.8) ▼ 9.2
自動車	(164) 8,130	(24.2) 26.9	(97.6) 17.3	7,600	▼ 6.5	▼ 2.8	(559) 37,603	(27.6) 26.8	(64.9) 17.6
建設・電販	(30) 30,166	(36.4) 1.7	(20.0) 11.8	30,200	0.1	▼ 4.6	(36) 34,259	(63.6) 13.8	(56.5) 10.2
その他内需	(55) 4,416	(▼9.8) 13.5	(▼24.7) 3.2	(400) 4,300	▼ 11.7 ▼ 2.6	(▼42.1) ▼ 12.5	(58) 7,386	(▼13.4) 12.6	(▼7.9) 7.3
内需計	(2,835) 58,774	(31.1) 14.1	(9.2) 6.5	(2,300) 5,890	(▼18.9) 0.2	(2.6) ▼ 6.8	(2513) 100,628	(34.0) 17.1	(7.7) 7.9
輸出	(1) 1,790	(▼99.6) 16.0	(▼99.7) 3.5	(100) 1,300	(9900.0) ▼ 27.4	(2400.0) 9.5	(4.0) 6,083	(▼97.1) 19.6	(▼95.3) 5.3
合計	(2,836) 60,564	(17.3) 14.2	(▼3.7) 6.4	(2,400) 60,200	(▼15.4) ▼ 0.6	(6.9) ▼ 6.5	(2,517) 106,711	(25.0) 17.3	(4.0) 7.7
心線販売	(501) 29,630	(25.3) 21.8	(▼63.5) ▼ 0.2	(700) 32,200	(39.7) 8.7	(▼44.3) ▼ 4.9	(121) 19,739	(26.0) 18.1	(▼68.5) ▼ 6.5

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2019年9月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,884	11.1	16.0	3,175	6.7	1.0	
巻線	10,580	19.4	▼ 3.5	11,242	17.8	▼ 6.7	
機器用電線	3,226	7.3	▼ 5.5	9,358	6.9	▼ 6.2	
通信用電線・ケーブル	1,383	8.8	▼ 0.5	3,137	10.4	0.0	
電力用電線・ケーブル	23,290	9.4	8.6	24,990	13.4	10.2	
被覆線	12,006	19.9	12.1	16,360	16.0	9.2	
輸送用電線	6,195	21.7	9.8	38,449	25.1	16.2	
銅電線計	60,564	14.2	6.4	106,711	17.3	7.7	
EM電線・ ケーブル	85	1.2	30.8	291	8.6	28.8	
	電力用電線・ケーブル、被覆線	3,614	▼ 0.2	23.3	4,069	0.7	20.3
	計	3,705	▼ 0.1	23.5	4,389	1.4	20.4
アルミ電線計	2,836	17.3	▼ 3.7	2,517	25.0	4.0	
光製品	3,005,318	2.4	▼ 28.8	27,430	35.6	24.6	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	5,412	27.8	17.3	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週は、LMEアルミ在庫が4万MT超増加、中国PMIが好調でメタル全般が上昇する中、米大統領がブラジルとアルゼンチンにアルミと鉄鋼輸入関税を導入する意思を示す。さらに米中交渉合意に期限はないと発言。また、フランスからの24億ドル相当の輸入品に100%の関税賦課を検討との発言もあり、世界的な株式市場の軟調につれてアルミも大幅に下落してのスタートとなる。第2週、中国貿易統計で銅輸入が大幅に改善されたことで銅相場が上昇。アルミ相場も連れて上昇するも\$1,770付近で反落。FOMC及びECBで共に政策金利の据え置きが決定。ただし、米インフレは引き続き抑圧されるとの見方が示された一方で、欧州景気リスクは慎重ながらも楽観的判断に引き上げられ、ユーロ高ドル安でアルミ相場は底支えされた。第3週、米中間で第一段階の通商合意に至るも米国は関税撤廃には応じず、先行きは不透明。しかし中国11月鉱業生産&小売売上高ともに市場予測を上回る結果となり市場は好感。中国商務省報道官が、第一段階の合意文書で米と緊密に連絡を取っていると述べ、中国国務院が米国製の化学製品6品目の関税免除を発表。米株が史上最高値を更新しアルミは\$1,800まで上昇。第4週、クリスマス休暇前で手控えの様相が強く出来高は低い。ボーイングが737MAXの生産停止を発表し、2020年Q1の米GDPが0.5ポイント押し下げられる可能性が指摘されるが、米株式が堅調だったことでアルミ相場もじり高の推移。当面は\$1,800前後での小幅な推移を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 12月積 1,877.00～1,883.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 12月積 219.80～220.50 円/kg
- ・NSP 2019年 10月 240.50 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2020年 1月～3月 250.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年10月	'19年11月	'18年11月
月生産	*2,373.0	2,313.0	2,281.0
平均日産	*76.5	77.1	76.0

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

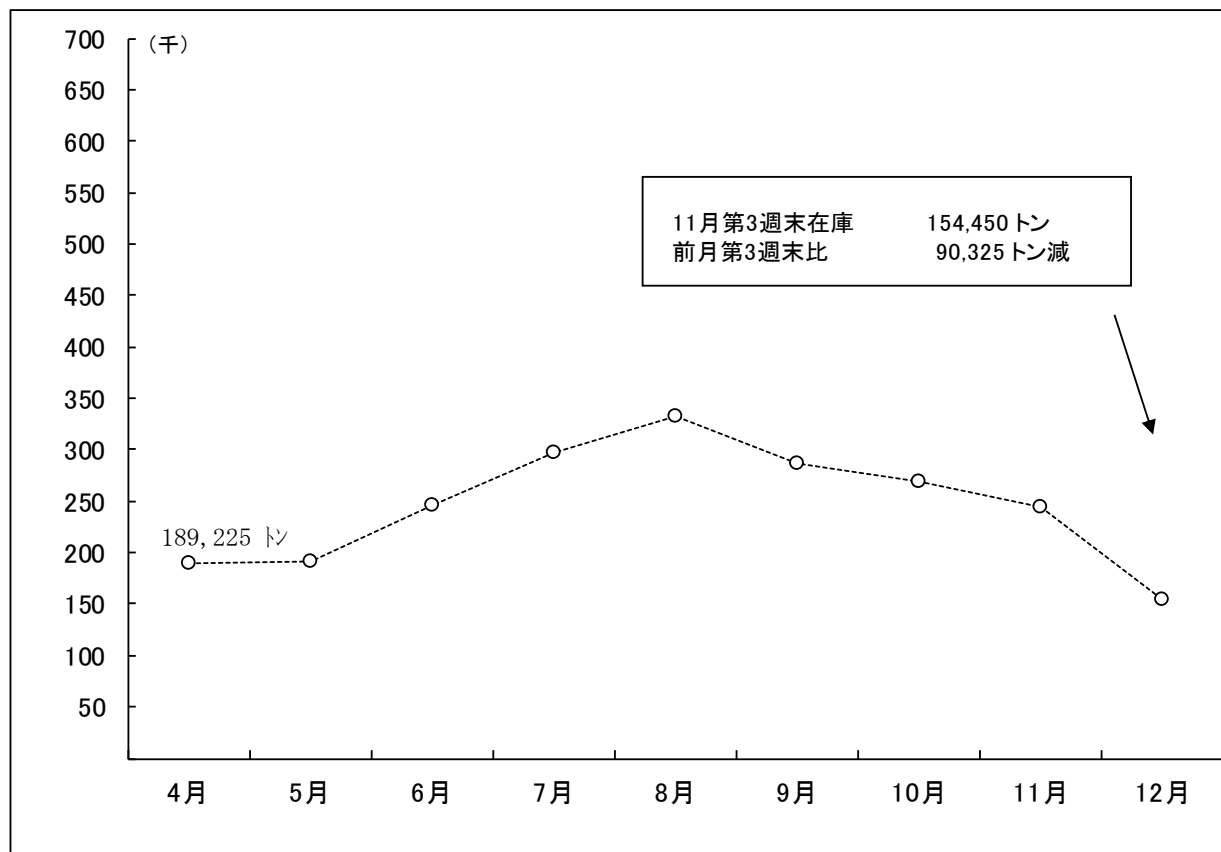
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2019年8月	2019年9月	増減	2018年9月	増減
横浜	159,000	157,600	-1,400	158,500	-900
名古屋	152,100	154,100	+2,000	144,700	+9,400
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	326,100	326,700	+600	318,200	+8,500

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・ 19年12月20日現在 39,958 S T 前月比 115 S T 増

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 19年10月末 96,716 トン 前月比 1,056 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 19年10月確報 63,083 トン
 ・ 19年11月速報 62,011 トン 前月比 98.3 %

◎ 電線出荷実績

・ 19年11月速報 59,500 トン 前月比 98.9 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 19年 11月	板 類	93,515 トン	
	押 出 類	64,107 トン	
		<hr/>	
		157,622 トン	前月比 97.6 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。